

「IFPMA総会・規約会議」開催される

IFPMA新会長にデビッド・ブレナン氏(アストラゼネカCEO)、副会長に野木森雅郁氏(アステラス社長兼CEO)とジョン・レックライター氏(イーライリリー会長兼CEO)が選任

トピックス

2010年11月10日、第25回IFPMA(国際製薬団体連合会)総会・規約会議が米国ワシントンにて開催され、日本人初のIFPMA会長を務めた内藤晴夫氏(エーザイ社長兼CEO)の後を継ぎ、新会長にデビッド・ブレナン氏(アストラゼネカCEO)が選任されました。また、副会長には、野木森雅郁氏(アステラス社長兼CEO)、ジョン・レックライター氏(イーライリリー会長兼CEO)が選任されました。新会長・副会長は、今後2年間に渡り、IFPMAの重要課題の執行に当たることになります。

ブレナンIFPMA新会長の就任挨拶

ブレナン新会長は、就任挨拶の中で、自身の目標について、「IFPMAのこれまでの活動を基礎として、世界が直面する、非感染性疾患、途上国における疾患、多剤耐性菌などの国際保健課題について、幅広いパートナーとオープンに取り組んでいきたい」と述べたほか、前会長の内藤晴夫氏(エーザイ社長兼CEO)に対して、「日本人初の会長として、われわれの活動に新たな視点をもたらすとともに、製薬業界のグローバル化がいっそう進展していることを身をもって体現してくれました」と、同氏の実績と貢献に対して謝辞を述べました。また、「われわれは、より良い活動を通じて、世界の人々に、医療上の課題解決に製薬業界が重要な役割を果たすことを知っていただき、信頼を獲得する必要があります」、「強調したいテーマは、国際社会が対峙する課題をわれわれも共有し、解決に向けたコミットメントを果たしていく(Shared Commitment)ことであ

り、そのことにより信頼関係を築き上げることができると今後の決意を述べました。

その他、総会では、加盟会社による途上国特有の疾患、顧みられない熱帯病に対する医薬品・ワクチンの研究開発状況について発表が行われ、開発プロジェクト数が、2009年の84から102に増大したことや、多くのプロジェクトがDNDi(Drugs for Neglected Diseases Initiative「顧みられない病気のための新薬イニシアティブ」)などの非営利団体との共同研究開発によるものであることが報告されました。

※詳細はこちらをご覧ください。

《IFPMA ニュースリリース》

http://www.ifpma.org/fileadmin/webnews/2010/pdfs/20101110_Release_DDW_RnD_Status_Report_10Nov2010.pdf

《各社開発状況報告書》

http://www.ifpma.org/fileadmin/webnews/2010/pdfs/20101110_Status_RnD_for_DDW_10Nov2010.pdf



パネラーの方々



パネルディスカッションの様子

IFPMA優先行動計画

IFPMA総会に先立ち、加盟協会・加盟会社の代表者による定例会合が開催され、国連機関における昨今の主要議題や、IFPMAの今後の優先活動（以下）について議論され、承認を得ました。

- ・ 慢性疾患問題
(NCD: Non Communicable Disease)
- ・ 新型インフルエンザ検体共有および利益共有
- ・ 公衆衛生・イノベーションと知的財産権に関する世界戦略と行動計画
- ・ 偽造医薬品対策
- ・ 知的財産権問題
(WTO TRIPS、CBD/ABS〈生物多様性利益配分など〉)

第25回IFPMA総会

政府関係者、WHO等国連機関関係者、途上国R&D関連NGO、学識経験者、ジャーナリストなど約230名に及ぶ多方面からの参加者を迎え、“A Shared Commitment to Global Health”をテーマに、国際保健問題に関する3つのパネルが開催され、活発な議論が交わされました。

《パネル1》

経済発展のための医療改革・進歩について議論され、WHO中谷事務局長補から、「健康と経済発展は密接な関連性があり、健康問題への取り組みは、各国政府の政策にとって欠かせないものである」とのコメント

トがなされました。

《パネル2》

途上国におけるキャパシティビルディングのあり方について議論され、国際エイズワクチンイニシアチブ広報部長のマツシジツン女史より、「キャパシティビルディングの最も効果的な方法として、国境を越えた研究環境を作り上げることが必要である」とのコメントがありました。

《パネル3》

東海大学政治経済学部政治学科専任教授の武見敬三氏の議事進行の下、途上国への技術移転のあり方について議論され、アステラス野木森社長からは、同社の実施例として、マレーシアの天然資源を利用した医薬品開発においてCBD/ABSの精神を尊重して技術移転を実施していることや、製薬協での途上国における技術者研修について紹介がなされました。パネルでは、さまざまな技術移転が実施される一方、医薬品共同開発などの成功事例を共有していくことが重要であり、IFPMAのいっそうの関与が期待されているとのコメントがありました。

閉会の挨拶

IFPMA理事長のエデュワルド・ピサーニ氏は、地球レベルの保健課題の改善に向けて、製薬業界が主体的に貢献を果たしてきたことを紹介するとともに、今後、各国政府、国連機関、NGO、財団等との連携を強める中で、より効果的な貢献を果たしていきたい、と決意を述べました。

(国際部部长 紙屋 稔)